

# 令和6年度 年間指導計画

A科:生物科学科 B科:環境科学科 C科:食農科学科

教科名	芸術	科目名	音楽	単位数	2	履修学年・クラス	1ABC
担当者		使用教材	教科書:「高校生の音楽1」(教育芸術社) 副教材:音楽鑑賞資料と基礎学習、音楽史を学ぶ(教育芸術社)				
学習目標	<p>○芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p> <p>○さまざまな音楽活動をする上で、必要な基礎的な能力を高め、創意工夫した音楽表現ができ、文化的、歴史的背景、他の芸術との関わりを踏まえ、音楽について考える力を身につけることを目標とする。</p>						
学習方法	<p>○基礎的な楽典を学習することで読譜の仕方やリズムの知識を深め、自ら楽譜を読み、表現方法を工夫し歌唱、合唱をする。</p> <p>○歌唱、合唱などを通じ、ハーモニーの良さや一体感を感じとり高め、実技試験により、自らの表現を考え工夫し発表する。</p> <p>○西洋音楽史において、西洋音楽の時代区分、変遷について、音や映像により理解を深める。</p>						
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点的趣旨				
	知	知識・技能(技術)	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱・器楽・創作などを表している。				
	思	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したごとくと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴く。				
	態	主体的に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				
学期	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
前期 中間	○歌唱、校歌、精神歌	校歌、精神歌、季節を歌う	○	○	○	[知][態]歌詞を理解し、積極的に声に出そうとしている。	・発声法 ・歌唱 ・実技テスト ・考査
	○楽典	基礎的な楽典の知識をつけ、読譜の力をつける		○		[思]歌詞の内容を感じとりイメージを持って歌唱表現工夫する。	
前期 末	○音楽史	古代～バロック音楽 歴史的背景や音楽の成り立ちを知る		○	○	[知]譜面通りに歌うだけでなく自分の声をわかり、声に合う表現を考えている。 [知]楽典の基礎を理解している。 [思]時代背景や作曲家の生涯及びどのように楽曲に影響しているか感じとる。	・歌唱リズム ・実技テスト ・考査
	○歌唱	愛唱歌に親しむ	○	○	○	[思]曲の構成や雰囲気を作りあげている要素を理解し意図をもって表現している。	
後期 中間	○器楽(リズム)	基礎的なリズム		○	○	[思][知]自分の声に合う表現を工夫し歌おうとしている。 [思][知]リズムの持つ特徴を生かしながら表現を工夫している。	・パート練習 ・取り組み ・合唱発表 ・小テスト
	○音楽史	古典派の音楽 歴史的背景や作曲家の生き方や作品を知る	○		○	[知][技]互いのリズムを聴きあいパートの役割を意識して身につけることができる。 [態]音楽史の各時代の特徴をとらえ流れをつかむことができる。	
後期 末	○歌唱	二部合唱、三部合唱  宮沢賢治作品についての知識・表現 出典楽譜などを広く学ぶ  独語、外国の歌曲の特徴 言語の違いなどを身につける	○	○	○	[知][態]合唱におけるパートの役割を理解し積極的に声を出そうとしている。 [知][思]歌の内容を理解し、ふさわしい表現方法を工夫している。 [知]他パートとのハーモニーを意識しながら美しく表現しようとして追及している。客観的にとらえ、上手になろうと努力している。 [知]諸外国の歌詞を読み簡単な意味を理解しようとする。 [思]表現の違いを感じとり聞き取ることができる。	・プリント学習 ・歌唱 ・実技テスト ・考査
	○オーケストラ器楽	器楽のしくみ、音色や役割を知り、 オーケストラの音色に親しむ ヴァイオリン トルウオーソンの特徴や時代背景	○	○	○	[知]オーケストラの楽器について歴史や仕組みを知り、調和の美しさについて感じとる。 [思]オーケストラの作品を身近に感じられている。劇音楽に興味を持ち、登場人物の把握やストーリーの理解ができている。 [思][態]ストーリーを把握し理解を深め、良さを味わって聴くことができている。	